

## 論文の内容の要旨

### 1 申請者

防衛医科大学校 山崎真之

### 2 論文題目

精神疾患およびメンタルヘルスサービスに対する陸上自衛官のスティグマに関連する因子の探索

### 3 論文の内容の要旨 (博士：2,277 字)

軍人の職務は、肉体的・精神的にストレスフルなものであり、多くの国で軍人に対するメンタルヘルスサービスの必要性が叫ばれている。しかし、メンタルヘルスサービスの導入が進められている一方で、軍人はその利用を忌避する傾向があることが知られている。その背景には、精神疾患に対する強い偏見や忌避感、すなわち、精神疾患に対するスティグマ (stigma) が関連していると考えられている。

精神疾患に対するスティグマはその個人が所属している集団の文化からの影響を受ける。軍人は自分が強い存在であるという体面を重要視し、心理的苦痛や精神疾患は個人の弱さと捉えてしまうことが多い。そのため、治療的介入が必要な状況にもかかわらずその機会を逸してしまうことも少なくない。その一方で、軍隊における団結力・リーダーシップがスティグマを軽減することも知られており、軍隊組織における文化的な影響は複雑である。自衛隊においても同様に、軍隊組織に見られる文化的影響が存在している可能性が考えられるが、こうしたスティグマに関する調査はこれまで自衛隊において実施されてこなかった。本研究の目的は、陸上自衛官の精神疾患に対するスティグマとメンタルヘルスサービスに対する態度を明らかにし、これらと関連する因子を探索することである。

本研究では先行研究に基づき、スティグマをパブリックスティグマ (スティグマの対象となる人に対して社会はこのような偏見や考え方をもっているだろうという信念) とセルフスティグマ (パブリックスティグマが個人のなかに内在化され、自分自身への見方に変化した信念) の 2 つに分けて調査した。さらに、「パブリックスティグマが援助希求 (専門家による援助を求めること) に直接影響するのではなく、セルフスティグマを介して影響を与えている」という Vogel が提唱したモデルについて、陸上自衛隊においても適用可能かどうか検証した。

陸上自衛官 4754 人に対して匿名のアンケートを実施し、3723 人 (78.3%) から有効な回答が得られた。アンケートでは、年齢、性別、最終学歴、配偶者の有無、子どもの有無、精神科既往歴を含む人口動態的因子、階級、災害派遣・海外派遣の経験の有無、部隊指揮官のリーダーシップ、所属部隊の団結力を含む自衛隊的因子を聴取した。さらに、心理的な不調を Kessler 10 (K10)、パブリックスティグマを Perceived Devaluation-Discrimination (PDD)、セルフスティグマを

Self-Stigma of Seeking Help (SSOSH)、援助希求を Attitudes Toward Seeking Professional Psychological Help Scale–Short Form (ATSPPH-SF)を用いて計測した。各因子とスティグマの関連性を探索するために、PDD、SSOSH、ATSPPH-SF の点数を目的変数として重回帰分析を実施した。さらに、先に述べた仮説を検証するために、媒介分析を実施した。

重回帰分析の結果、パブリックスティグマは、年齢、階級、最終学歴、精神科受診歴、セルフスティグマと正の関連を、リーダーシップ、団結力、援助希求と負の関連を示した。セルフスティグマは、心理的な不調、パブリックスティグマと正の関連を、年齢、最終学歴、リーダーシップ、団結力、援助希求と負の関連を示した。援助希求は、年齢、階級、精神科受診歴、団結力と正の関連を、パブリックスティグマ、セルフスティグマと負の関連を示した。

媒介分析では、援助希求–パブリックスティグマ間の総合効果は-0.132 ( $p < 0.001$ ) であり、セルフスティグマを媒介変数としたモデルのパス解析では、パブリックスティグマ–セルフスティグマ間の回帰係数は 0.378 ( $p < 0.001$ )、セルフスティグマ–援助希求間の回帰係数は-0.313 ( $p < 0.001$ )、間接効果は-0.118 ( $p < 0.001$ ) であった。パブリックスティグマと援助希求間の直接効果は-0.013 ( $p = 0.274$ ) であった。

媒介分析の結果、「精神疾患に対するパブリックスティグマは、セルフスティグマを介して援助希求に負の影響を与えている」という Vogel のモデルが、陸上自衛隊においても適用可能であることが明らかとなった。すなわち、パブリックスティグマが直接、援助希求に影響を与えているのではなく、これらが内在化されて形成されるセルフスティグマを通じ、援助希求を阻害していた。したがって、精神疾患に対するスティグマの軽減を企図した教育、特にセルフスティグマの軽減にフォーカスした教育的介入により、隊員の援助希求を推進させる効果が示唆された。

また、自衛隊の組織文化的要因として注目した、指揮官のリーダーシップと所属部隊の団結力については、パブリックスティグマとセルフスティグマの双方と負の関連を示し、団結力は援助希求と正の関連を示していた。先行研究では、リーダーシップと団結力は相乗的に兵士のスティグマを軽減させることや、保護的なリーダーシップは、セルフスティグマの低下を通じて援助希求を推進させることが報告されている。これらの知見も合わせて考えると、指揮官のリーダーシップや部隊の団結力を強化する自衛隊の取り組みもまた、精神疾患に対するスティグマの軽減を通じ、援助希求の促進につながる可能性が示唆された。

今後、こうした介入によるスティグマの軽減、さらにはメンタルヘルス向上効果を検証するような、縦断的実証研究が望まれる。

#### 4 キーワード (5 個程度)

軍事心理学、軍事要員、メンタルヘルス、アンケート調査、社会的スティグマ